

科目名	情報系資格対策講座 6							年度	2026
英語科目名	Information System Qualification Course 5							学期	後期
学科・学年	ITスペシャリスト科 3年次	必/選	必	時間数	60	単位数	4	種別※	講義
担当教員	金井		教員の実務経験	有	実務経験の職種	システムエンジニア			
<b>【科目の目的】</b> キャリアを形成するうえで有用となる情報系の試験に合格することを目指す。学生がすでに取得している情報系の試験のレベルに合わせて、ターゲットとする資格については開講時に決定する。本シラバス基本情報技術者試験を例として記載する。基本情報技術者試験以外をターゲットとした講座は、講座の冒頭にシラバスを掲示する。									
<b>【科目の概要】</b> 基本情報技術者試験の科目A、科目B双方の合格を目指す。既に試験範囲の学習を終えていることを前提に各分野の出題傾向、出題の度合いなどを踏まえて各自反転学習の形式でアクティブラーニングを行う。各授業回の学習テーマについては自主性に任せ、各自の重点補強学習ポイントに沿って計画し、実施する。発表者は固定とならないよう、交代で実施し、担当回は欠席しないように務め、万が一欠席となってしまう場合には責任をもって発表担当者の代理を立てる。以下は例として記載する。									
<b>【到達目標】</b> 情報処理技術者試験に合格することを目指す。経営者の方針を理解し、経営を取り巻く外部環境を正確に捉えるための動向や事例を知ることが合格水準であり、合格すると企業就職後の即戦力、中核的人材となる素質をもつことを証明でき、システム開発においては設計～運用・保守において上位者の方針を理解し、自ら技術的問題を解決できるようなワンランク上のITエンジニアになるために必要な技術的知識が得られる。 A. 授業への参加度 B. リーダーシップ C. 試験問題への理解度 D. プレゼンテーション能力									
<b>【授業の注意点】</b> 資格試験は、講義時間内の学習だけでは合格困難であり、学生自身が主体的に自宅学習を進めることが肝要である。授業中の私語や受講態度などには厳しく対応をする。理由の無い遅刻や欠席は認めない。講義に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーを守ることを求める。（詳しくは、最初の授業で説明。）授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	積極的に発言し、他者を巻き込み積極的な意見交換ができています。	定期的に発言し、意見を共有できています。	時々発言し、授業に参加している。	発言が少なく、消極的な姿勢である。	ほとんど発言せず、参加していない。				
到達目標 B	チーム内でリーダーシップを発揮している。	他者との協力を大切にし、チームの円滑な運営に貢献している。	指示に従い、協力的な態度をとっている。	協力する姿勢が見えず、消極的である。	完全に孤立し、チーム活動に協力しない。				
到達目標 C	演習問題を迅速かつ正確に解答でき、内容を深く理解している。	演習問題を解答できるが、一部にミスや不安が見られる。	基本的な問題に対しては正確だが、難易度の高い問題には不安がある。	演習問題の解答に多くのミスがあり、理解が浅い部分が多い。	演習問題の解答がほとんどできず、理解に大きな欠陥がある。				
到達目標 D	明確かつ自信を持って発表でき、他者の評価も高い。	知識に基づいて適切に発表できており、他者の評価がやや高い。	基本的な発表ができるが、流暢さが不足しており、他者の評価も普通。	発表内容が不十分で、伝わりにくく、他者の評価も普通未満。	発表がほとんどできておらず、欠陥がある。他者の評価も低い。				
到達目標 E	積極的に自主学習を行い、予習復習を通じて高い理解度を維持している。	自主学習を行っており、ほぼ全ての内容で準備ができています。	自主学習を行っているが、特定の部分に対して準備不足が見られる。	自主学習が不足しており、準備不足な部分が多い。	自主学習をほとんど行っておらず、準備が非常に不足している。				
<b>【教科書】</b> 資料を配布する									
<b>【参考資料】</b>									
<b>【成績の評価方法・評価基準】</b> 目標としている試験への取り組み状況、試験申し込みと受験の実績、および合否の結果を総合的に評価する。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		情報系資格対策講座 6			年度	2026
英語表記		Information System Qualification Course 5			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	学習計画の策定	自分たちで具体的な学習計画を立てることで、目標意識を高める	1 個人の重点学習ポイントの把握 2 個人の重点学習ポイントをグループで共有 3 学習計画作成	自分たちの学習計画を策定し、受験に向けた戦略を明確にできる。	2	
2	グループ学習1	ITの基本概念を仲間と共有し、理解を深める	1 基本用語についてプレゼンテーション 2 基本用語クイズ	ITの役割や用語をチームメンバとともに整理できる	2	
3	グループ学習2	アルゴリズムの基本を協力して学ぶ	1 疑似言語の仕様についてプレゼンテーション 2 課題のペア演習	アルゴリズムの基本をチームメンバと共に理解できる	2	
4	グループ学習3	データベーススキルを協力して身に着ける	1 データベース設計についてのプレゼンテーション 2 SQL演習	データベースの設計とSQLの基本をチームメンバと共に理解できる	2	
5	グループ学習4	ネットワークの構造を協力して学ぶ	1 ネットワークトポロジーのモデル作成についてプレゼンテーション 2 TCP/IPモデルの演習	ネットワークトポロジーをチームメンバと共に表現できる	2	
6	グループ学習5	セキュリティ事例をもとに重要性を理解し対策パターンを協力して学ぶ	1 セキュリティ脅威の事例についてのプレゼンテーション 2 グループワークでの対策案の調査	セキュリティ脅威と対策をチームメンバと共に理解できる	2	
7	グループ学習6	システム開発プロセスを協力して学ぶ	1 開発手法の種類についてのプレゼンテーション 2 システム開発ライフサイクルのロールプレイ	開発ライフサイクルと手法をチームメンバと共に理解できる	2	
8	グループ学習7	プロジェクト管理手法を協力して学ぶ	1 プロジェクト管理手法、リスク管理についてのプレゼンテーション 2 リスク管理のケーススタディ	プロジェクト計画とリスク管理をチームメンバと共に理解できる	2	
9	グループ学習8	企業組織の役割と意義を協力して学ぶ	1 組織構造の役割や意義についてのプレゼンテーション 2 人材管理のロールプレイ	組織の役割とコミュニケーションの重要性をチームメンバと共に理解できる	2	
10	グループ学習9	法律・倫理の基本概念を理解し、実務におけるコンプライアンスとガバナンスの役割を知る	1 情報システムにおけるコンプライアンスの重要性についてのプレゼンテーション 2 ITガバナンスとその役割についてのプレゼンテーション	コンプライアンスとITガバナンスの基礎をチームメンバと共に理解できる	2	
11	グループ学習10	システム設計のプロセスを協力して学習する	1 要件定義の基礎知識、ポイントについてのプレゼンテーション 2 要件定義グループワーク	要件定義のロールプレイを通してチームメンバと共に理解できる	2	
12	グループ学習11	テストと品質管理について協力して学習する	1 テスト、品質管理手法についてのプレゼンテーション 2 テスト計画の作成グループワーク	テスト計画を作成し、品質管理手法をチームメンバと共に理解できる	2	
13	グループ学習12	最新技術のトレンドを共有する	1 クラウドやIoTなどに関する最新技術の内容を反転学習し各自が研究発表する	最新技術のトレンドについてチームメンバとともに知識を深めることができる	2	
14	グループ学習13	過去問題を用いたグループ演習	1 問題演習 2 情報共有、教え合い	過去問題を解決し、知識を整理できる。	2	
15	グループ学習14	過去問題を用いたグループ演習	1 問題演習 2 情報共有、教え合い	過去問題を解決し、知識を整理できる。	2	

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他  
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった  
備考 等